

大学番号 公立専短 1

注3

設置年度 令和 3年度
 計画の区分： 専門職短期大学の設置
 注1

認可

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部

生産科学科

注2

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

静岡県
 令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務企画課

職名・氏名

フクハンチョウスズケンタロウ
副班長 鈴木健太郎

電話番号

0538-31-7901

（夜間）

0538-34-4445

e-mail

noukandaisoumu@pref.shizuoka.lg.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
 設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
 () 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
 例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
 (旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
 表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
 例)
 ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
 ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
 ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
 ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
 ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
 ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
 ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
 ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

＜生産科学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	26
7. その他全般的事項	29

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

静岡県

(2) 大学名

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部

(3) 調査対象大学等の位置

〒438-8577

静岡県磐田市富丘678-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(スズキ シゲヒコ) 鈴木 滋彦 (令和2年4月)		
学科長	(タケウチ タカシ) 竹内 隆 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)
令和3年度に報告する内容 → (3)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
生産科学科 <small>農林業短期大学士（専門職）</small>	農学関係	2年	100人	- 年次人	200人	新規入学者を募集	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	100 (-) [-]	-	100 (-) [-]	-			0.84倍	-	
志願者数	86 (-) [-]	-	116 (-) [2]	-					
受験者数	84 (-) [-]	-	114 (-) [2]	-					
合格者数	84 (-) [-]	-	104 (-) [1]	-					
B 入学者数	77 (-) [-]	-	92 (-) [1]	-					
入学定員超過率 B/A	0.77		0.92						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度							備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期						
1年次	77 [-] (-)	- [-] (-)	92 [1] (-)	- [-] (-)						
2年次			77 [-] (-)	- [-] (-)						
計	77 [-] (-)		169 [1] (-)							

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	77 人	0 人	令和2年度	0 人	0 人	
令和3年度	169 人	0 人	令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
合計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数 (a)}}{\text{令和2年度の在学者数 (b)}} = \frac{0}{77} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数 (a)}}{\text{令和3年度の在学者数 (b)}} = \frac{0}{169} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数 (a)}}{\text{令和4年度の在学者数 (b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数 (a)}}{\text{令和5年度の在学者数 (b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

- (注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
職業専門科目	演習林実習Ⅱ【※】	2春・夏		6			1				1
	企業実習【※】【臨】	2春・夏・秋	10			3	2	5			
	大型機械実習【※】	2春・夏・秋	2								1
	GAP演習	2春・夏・秋	1			1		1			1
	小計(53科目)	-	18	126	6	6	4	9	0	0	-
展開科目	農山村田園地域公共学	2冬	2					1			
	農と食の健康論	2冬		2							2
	食品科学	1秋		2							1
	食品加工演習	1秋・冬		2			1				1
	アグリフードシステム論	1秋・冬		2							1
	マーケティング・販売演習	1春・夏		2				1			2
	流通加工論	1春・夏		2							1
	木材加工演習	1冬		2			1				
	木材利用・流通論	2夏		2				1			1
	農業経営	1冬		2				1			
	畜産経営	1冬		2		1					
	林業経営	1冬		2		1					
	畜産経営演習(大家畜)	2秋			2		1				
	畜産経営演習(中小家畜)	2秋			2			1			
小計(14科目)	-	4	20	4	2	2	4	0	0	6	
総合科目	プロジェクト研究【※】	2通	2								
小計(1科目)	-	2	0	0	6	5	9	0	0	6	
合計(77科目)	-	2	0		6	5	10	0	0	28	
卒業要件及び履修方法											
<p><卒業要件> 基礎科目より10単位以上、職業専門科目より46単位以上、展開科目より10単位以上、総合科目2単位を修得し、合計68単位以上とする。</p> <p>(基礎科目)必修9単位を含む10単位以上 (職業専門科目)46単位以上 ■農林業基礎科目群:必修3単位を含む7単位以上 ■生産理論科目群:コースを選択し、選択必修2単位、コース必修を含む14単位以上</p> <p>○選択必修:植物生理生態学、樹木・組織学、畜産概論 ◎栽培コース必修:土壌肥料・植物栄養学、植物保護、先端栽培技術、環境保全型農業論 ・野菜栽培、花き栽培、茶栽培、果樹栽培のいずれかを選択 ・「野菜栽培」、「花き栽培」を選択した者は、「施設園芸」を選択 栽培コースは「植物遺伝育種学概論」を選択できるものとする。 ◎林業コース必修:森林計画学、造林学、森林生態学、木材生産システム、森林土木論(治山・林道)、植物遺伝育種学概論 ◎畜産コース必修:飼料総論、家畜飼養、家畜生理解剖、家畜育種繁殖、家畜衛生学、畜産環境・堆肥利用論 ■生産技術から必修15単位とコース必修を含む25単位以上 ◎栽培コース必修:いずれかの組み合わせで履修する ・「野菜栽培」:圃場実習Ⅰ(野菜)、圃場実習Ⅱ(野菜) ・「花き栽培」:圃場実習Ⅰ(花き)、圃場実習Ⅱ(花き) ・「茶栽培」:圃場実習Ⅰ(茶)、圃場実習Ⅱ(茶) ・「果樹栽培」:圃場実習Ⅰ(果樹)、圃場実習Ⅱ(果樹) ◎林業コース必修:演習林実習Ⅰ、演習林実習Ⅱ ◎畜産コース必修:圃場実習Ⅰ(畜産)と、圃場実習Ⅱ(大家畜)もしくは圃場実習Ⅱ(中小家畜)のいずれかを選択する。 (展開科目)必修4単位及びコース必修を含む10単位以上 ◎栽培コース必修:農業経営、流通加工論 ◎林業コース必修:木材加工演習、木材利用・流通論、林業経営 ◎畜産コース必修:畜産経営、流通加工論 (総合科目)プロジェクト研究を2単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:45単位(年間))</p>											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
職業専門科目	演習林実習Ⅱ【※】	2春・夏		6			1				1
	企業実習【※】【臨】	2春・夏・秋	10			3	2	5			
	大型機械実習【※】	2春・夏・秋	2								1
	GAP演習	2春・夏・秋	1			1		1			1
	小計(53科目)	-	18	126	6	6	4	9	0	0	-
展開科目	農山村田園地域公共学	2冬	2					1			
	農と食の健康論	2冬		2							2
	食品科学	1秋		2							1
	食品加工演習	1秋・冬		2			1				1
	アグリフードシステム論	1秋・冬		2							1
	マーケティング・販売演習	1春・夏		2				1			2
	流通加工論	1春・夏		2							1
	木材加工演習	1冬		2			1				
	木材利用・流通論	2夏		2				1			1
	農業経営	1冬		2				1			
	畜産経営	1冬		2		1					
	林業経営	1冬		2		1					
	畜産経営演習(大家畜)	2秋			2		1				
	畜産経営演習(中小家畜)	2秋			2			1			
小計(14科目)	-	4	20	4	2	2	4	0	0	6	
総合科目	プロジェクト研究【※】	2通	2								
小計(1科目)	-	2	0	0	6	5	9	0	0	6	
合計(77科目)	-	2	0		6	5	10	0	0	28	
卒業要件及び履修方法											
<p><卒業要件> 基礎科目より10単位以上、職業専門科目より46単位以上、展開科目より10単位以上、総合科目2単位を修得し、合計68単位以上とする。</p> <p>(基礎科目)必修9単位を含む10単位以上 (職業専門科目)46単位以上 ■農林業基礎科目群:必修3単位を含む7単位以上 ■生産理論科目群:コースを選択し、選択必修2単位、コース必修を含む14単位以上</p> <p>○選択必修:植物生理生態学、樹木・組織学、畜産概論 ◎栽培コース必修:土壌肥料・植物栄養学、植物保護、先端栽培技術、環境保全型農業論 ・野菜栽培、花き栽培、茶栽培、果樹栽培のいずれかを選択 ・「野菜栽培」、「花き栽培」を選択した者は、「施設園芸」を選択 栽培コースは「植物遺伝育種学概論」を選択できるものとする。 ◎林業コース必修:森林計画学、造林学、森林生態学、木材生産システム、森林土木論(治山・林道) ・林業コースは、作物栽培、植物遺伝育種学概論のいずれかを選択 ◎畜産コース必修:飼料総論、家畜飼養、家畜生理解剖、家畜育種繁殖、家畜衛生学、畜産環境・堆肥利用論 ■生産技術から必修15単位とコース必修を含む25単位以上 ◎栽培コース必修:いずれかの組み合わせで履修する ・「野菜栽培」:圃場実習Ⅰ(野菜)、圃場実習Ⅱ(野菜) ・「花き栽培」:圃場実習Ⅰ(花き)、圃場実習Ⅱ(花き) ・「茶栽培」:圃場実習Ⅰ(茶)、圃場実習Ⅱ(茶) ・「果樹栽培」:圃場実習Ⅰ(果樹)、圃場実習Ⅱ(果樹) ◎林業コース必修:演習林実習Ⅰ、演習林実習Ⅱ ◎畜産コース必修:圃場実習Ⅰ(畜産)と、圃場実習Ⅱ(大家畜)もしくは圃場実習Ⅱ(中小家畜)のいずれかを選択する。 (展開科目)必修4単位及びコース必修を含む10単位以上 ◎栽培コース必修:農業経営、流通加工論 ◎林業コース必修:木材加工演習、木材利用・流通論、林業経営 ◎畜産コース必修:畜産経営、流通加工論 (総合科目)プロジェクト研究を2単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:45単位(年間))</p>											

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手	
基礎科目	静岡学	1通	2			1						
	分子生物学	1夏	2									1
	保健体育【※】	1通	2									1
	コミュニケーション論	1夏	1									1
	英語基礎	1春・夏	1									1
	英語応用	1秋・冬	1									1
	情報処理演習	1通	2				1					
	簿記基礎	1春			1							1
	簿記応用	1夏			1							1
小計(9科目)	-	9	2	2	1	1	0	0	0		5	
職業専門科目	農学概論	1春	2			2	1	1				8
	農林業史	1春	2									1
	農林業政策	1春	2									1
	県内農林業事情	1夏	2			5	2					
	県外農林業事情(未開講)	1夏			1	1	1	4				
	海外農林業事情	2夏			1	2						
	農林業のための科学	1春	1									1
	野生鳥獣管理・利用論	1冬	2			1						
	営農と農業関連法	1秋	2			2		3				3
	植物生理生態学	1夏	2									1
	土壌肥料・植物栄養学	1秋	2			1						1
	植物保護	1秋	2									1
	作物栽培	1秋	2				1					
	茶栽培	1冬	2				1					
	野菜栽培	1冬	2			1						
	果樹栽培	1冬	2			1						
	花き栽培	1冬	2			1						
	施設園芸	2夏	2			1						
	先端栽培技術	2冬	2			1						1
	環境保全型農業論	2冬	2			1						1
	森林計画学	1秋	2			1						2
	造林学	1秋	2			1						
	森林生態学	2冬	2									1
	樹木・組織学	1夏	2									1
	木材生産システム	2春・夏	2			1	1					1
	森林土木論(治山・林道)	1冬	2			2						1
	植物遺伝育種学概論	1秋	2			1						1
	畜産概論	1夏	2			1						
	飼料総論	1秋	2			1						
	家畜生理解剖	1秋	2					1				
	家畜飼養	1秋	2			1						
	家畜育種繁殖	1冬	2				1					
	畜産法規	1冬		2		1						
	家畜衛生学	1冬	2									1
	畜産環境・堆肥利用論	2冬	2			1						
	人工授精論	2秋		2			1					
総合実習【※】	1春・夏	2				2	8				4	
園場実習Ⅰ(野菜)【※】	1秋・冬	4				1	3				1	
園場実習Ⅰ(花き)【※】	1秋・冬	4			1		1					
園場実習Ⅰ(茶)【※】	1秋・冬	4				1					1	
園場実習Ⅰ(果樹)【※】	1秋・冬	4					1				1	
園場実習Ⅰ(畜産)【※】	1秋・冬	4					2				1	
演習林実習Ⅰ【※】	1秋・冬	4				1					1	
園場実習Ⅱ(野菜)【※】	2春・夏	6				1	3				1	
園場実習Ⅱ(花き)【※】	2春・夏	6			1		1					
園場実習Ⅱ(茶)【※】	2春	6				1					1	
園場実習Ⅱ(果樹)【※】	2春・夏	6					1				1	
園場実習Ⅱ(大家畜)【※】	2春	6			2	1	2				4	
園場実習Ⅱ(中小家畜)【※】	2春	6			2	1	3				3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
職業専門科目	演習林実習Ⅱ【※】	2春・夏		6			1					1
	企業実習【※】【臨】	2春・夏・秋	10			3	2	5				
	大型機械実習【※】	2春・夏・秋	2									1
	GAP演習	2春・夏・秋	1			1		1				1
	小計(53科目)	-	18	126	6	6	4	9	0	0	0	-
展開科目	農山村田園地域公共学	2冬	2					1				
	農と食の健康論	2冬		2								2
	食品科学	1秋		2								1
	食品加工演習	1秋・冬		2				1				1
	アグリフードシステム論	1秋・2夏		2					1			1
	マーケティング・販売演習	1春・秋		2					1			2
	流通加工論	1春・秋		2								1
	木材加工演習	1冬		2				1				
	木材利用・流通論	2夏		2					1			1
	農業経営	1冬		2				1				
	畜産経営	1冬		2		1						
	林業経営	1冬		2		1						
	畜産経営演習(大家畜)	2秋			2		1					
	畜産経営演習(中小家畜)	2秋			2			1				
小計(14科目)	-	4	20	4	2	2	4	0	0	0	6	
総合科目	プロジェクト研究【※】	2通	2									
小計(1科目)	-	2	0	0	6	5	9	0	0	0	6	
合計(77科目)	-	2	0		6	5	10	0	0	0	28	

卒業要件及び履修方法

<卒業要件>

基礎科目より10単位以上、職業専門科目より46単位以上、展開科目より10単位以上、総合科目2単位を修得し、合計68単位以上とする。

(基礎科目)必修9単位を含む10単位以上

(職業専門科目)46単位以上

■農林業基礎科目群:必修3単位を含む7単位以上

■生産理論科目群:コースを選択し、選択必修2単位、コース必修を含む14単位以上

○選択必修:植物生理生態学、樹木・組織学、畜産概論

◎栽培コース必修:土壌肥料・植物栄養学、植物保護、先端栽培技術、環境保全型農業論

・野菜栽培、花き栽培、茶栽培、果樹栽培のいずれかを選択

・「野菜栽培」、「花き栽培」を選択した者は、「施設園芸」を選択

・栽培コースは「植物遺伝育種学概論」を選択できるものとする。

◎林業コース必修:森林計画学、造林学、森林生態学、木材生産システム、森林土木論(治山・林道)

・**林業コースは、作物栽培、植物遺伝育種学概論のいずれかを選択**

◎畜産コース必修:飼料総論、家畜飼養、家畜生理解剖、家畜育種繁殖、家畜衛生学、畜産環境・堆肥利用論

■生産技術から必修15単位とコース必修を含む25単位以上

◎栽培コース必修:いずれかの組み合わせで履修する

・「野菜栽培」:圃場実習Ⅰ(野菜)、圃場実習Ⅱ(野菜)

・「花き栽培」:圃場実習Ⅰ(花き)、圃場実習Ⅱ(花き)

・「茶栽培」:圃場実習Ⅰ(茶)、圃場実習Ⅱ(茶)

・「果樹栽培」:圃場実習Ⅰ(果樹)、圃場実習Ⅱ(果樹)

◎林業コース必修:演習林実習Ⅰ、演習林実習Ⅱ

◎畜産コース必修:圃場実習Ⅰ(畜産)と、圃場実習Ⅱ(大家畜)もしくは圃場実習Ⅱ(中小家畜)のいずれかを選択する。

(展開科目)必修4単位及びコース必修を含む10単位以上

◎栽培コース必修:農業経営、流通加工論

◎林業コース必修:木材加工演習、木材利用・流通論、林業経営

◎畜産コース必修:畜産経営、流通加工論

(総合科目)プロジェクト研究を2単位

(履修科目の登録の上限:45単位(年間))

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。

・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。

・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼担教員が担当する科目を含む。)を

黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。

・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。

・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。

・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「【臨地実務実習】による授業科目には「【臨】」、

「【連携実務演習】による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

・ 附帯事項2の意見を受け、学生が主体的に履修科目を選択できるようにするため、「植物遺伝育種学概論」を林業コース必修から選択必修に変更、また、「作物栽培」を林業コース選択必修に加える。

【令和3年度】

特になし。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況(※変更なし)				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
14 科目	55 科目	8 科目	77 科目	14 科目 [-]	55 科目 [-]	8 科目 [-]	77 科目 [-]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	県外農林業事情	1	1夏	職業専門	選択	新型コロナウイルス感染症により、県外へ出向くことを自粛したため。
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大にともなう緊急事態宣言が発出されたため、県を跨ぐ移動は自粛せざる得ない状況であった。ガイダンスにて学生へ開講しないことを直接周知した。次年度以降は基本的に開講する方針である。昨年度1年生に履修希望があれば履修を認める。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{77} = \boxed{1.29}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	静岡県立農林環境専門 職大学（必要面積960 ㎡）と共有。令和3年 度末までは静岡県立農 林大学校と共用			
	校舎敷地	㎡	18,076㎡	㎡	18,076㎡				
	運動場用地	㎡	10,469㎡	㎡	10,469㎡				
	小 計	㎡	28,545㎡	㎡	28,545㎡				
	そ の 他	㎡	52,499㎡	㎡	52,499㎡				
合 計	㎡	81,044㎡	㎡	81,044㎡					
(2) 校 舎	専 用	453㎡	5,952㎡ 5,849㎡	494㎡	6,899㎡ 6,796㎡	静岡県立農林環境専門 職大学（必要面積960 ㎡）と共有。令和3年 度末までは静岡県立農 林大学校と共用 C棟完成、A棟改修工 事にかかる面積変更等を 反映 (3) 参考資料 6 参照			
	(152㎡)	(3,409㎡) (3,395㎡)	(392㎡)	(3,953㎡) (3,939㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	16室	0室	7室 (補助職員 0人)	1室 (補助職員 0人)	語学学習施設 0室 大学全体			
	演 習 室								
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		共同研究室3室は静岡県立 農林環境専門職大学と共 用			
	生産科学科			22 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	図書、機械・器具及び 標本は静岡県立農林環 境専門職大学と共用 図書、機械・器具及び 標本は静岡県立農林環 境専門職大学と共用 学術雑誌のうち、和文 雑誌を20種から25種に 増やしたため、完成年 度の総数が増加した。 なお、外国雑誌5種 は、5月1日現在契約手 続き中となる。(2) 視聴覚資料は学生の教 育の質向上を目指して 数を増やした。(2) 図書については、予算 確保の見通しが立ち、 完成年度まで毎年約千 冊整備する方針となっ た。教職員や学生の要 望を聴取して図書・学 術雑誌・視聴覚資料の 整備を進めた結果、現 時点で当初の完成年度 予定数値を上回った。 (3)	
	生産科学科	14,500 [390] 12,816 [366]	78 [22] 45 [20] 46 [20]	22 [22] 20 [20]	300 96 64	975	2		
		(13,450 [383])	(78 [22])	22 [22]	(300)	(585)	(2)		
	計	14,500 [390] 12,816 [366]	78 [22] 45 [20] 46 [20]	22 [22] 20 [20]	300 96 64	975	2		
		(13,450 [383])	(78 [22])	22 [22]	(300)	(585)	(2)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 工事完了により、面 積・収納可能冊数を精 査した結果を反映。閱 覧座席数については、 学生数等を考慮して計 画を見直した。(3)		
	710.77 ㎡ 662 ㎡		104 席 60 席		56,000 50,000				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体		
	904 ㎡		該当なし						
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	研究費及び図書・設備購入 費について改めて検討し決 定(2)(3) 図書年次購入費の増減が予 算協議により認められたた め増加。(3) 図書費には電子ジャーナ ル・データベースの整備費 (運用コストを含む)を含 む 図書及び設備は静岡県立農 林環境専門職大学と共用の ため、含算した金額	
	教員 1 人 当 り 研 究 費 等	453千円 250千円	453千円 250千円	図書購入費	51,033千円 51,494千円	34,842千円 34,330千円	11,624千円 8,645千円 200千円		
	共 同 研 究 費 等	2,056千円 2,250千円	2,200千円 2,056千円 2,250千円	設備購入費	437,337千円 368,506千円	242,229千円 245,670千円	8,465千円 720千円		
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次 ①463千円 ②689千円	第 2 年 次 322千円	第 3 年 次 322千円	第 4 年 次 322千円	第 5 年 次 一 千 円	第 6 年 次 一 千 円		①県内の者 ②県外の者
	学生納付金以外の維持方法の概要	県費、雑収入等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目は△○対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(3)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		静岡県立農林環境専門職大学短期大学部					学生募集停止学科数	-	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
生産科学科	2年	100人	-	200人	農林業短期大学士(専門職)	0.84倍	0.92倍	-	令和2年度	磐田市富丘678-1	
大学の名称		静岡県立農林環境専門職大学					学生募集停止学科数	-	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
生産環境経営学部 生産環境経営学科	4年	24人	-	96人	農林業学士(専門職)	1.14倍	1.16倍	-	令和2年度	磐田市富丘678-1	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
 (専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<生産科学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小林 信一 (69) <令和2年4月> 農学博士
		畜産法規 畜産経営 野生鳥獣管理・利用論 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 海外農林業事情 プロジェクト研究
専	准教授	横田 茂永 (57) <令和2年4月> 農学博士
		農業経営 情報処理演習 プロジェクト研究
専	講師	瀬戸 隆弘 (36) <令和2年4月> 博士(獣医学)
		家畜生理解剖 圃場実習Ⅰ(畜産) 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 総合実習※ プロジェクト研究
専	講師	吉村 親 (44) <令和2年4月> 修士(教育学)
		農山村園地域公共学 圃場実習Ⅰ(野菜) 圃場実習Ⅱ(野菜) 総合実習※ 農学概論※ プロジェクト研究
実専 (学 科長)	教授	竹内 隆 (62) <令和2年4月> 農学士
		静岡学 野菜栽培 施設園芸 営農と農業関連法※ 県内農林業事情※ プロジェクト研究
実専	准教授	中根 健 (58) <令和2年4月> 農学士
		作物栽培 圃場実習Ⅰ(野菜) 圃場実習Ⅱ(野菜) 企業実習 総合実習※ 県内農林業事情※ プロジェクト研究

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小林 信一 (69) <令和2年4月> 農学博士
		畜産法規 畜産経営 野生鳥獣管理・利用論 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 海外農林業事情 プロジェクト研究
専	准教授	横田 茂永 (57) <令和2年4月> 農学博士
		農業経営 情報処理演習 プロジェクト研究
専	講師	瀬戸 隆弘 (36) <令和2年4月> 博士(獣医学)
		家畜生理解剖 圃場実習Ⅰ(畜産) 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 総合実習※ プロジェクト研究
専	講師	吉村 親 (44) <令和2年4月> 修士(教育学)
		農山村園地域公共学 圃場実習Ⅰ(野菜) 圃場実習Ⅱ(野菜) 総合実習※ 農学概論※ プロジェクト研究
実専 (学 科長)	教授	竹内 隆 (62) <令和2年4月> 農学士
		静岡学 野菜栽培 施設園芸 営農と農業関連法※ 県内農林業事情※ プロジェクト研究
実専	准教授	中根 健 (58) <令和2年4月> 農学士
		作物栽培 圃場実習Ⅰ(野菜) 圃場実習Ⅱ(野菜) 企業実習 総合実習※ 県内農林業事情※ プロジェクト研究

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小林 信一 (70) <令和2年4月> 農学博士
		畜産法規 畜産経営 野生鳥獣管理・利用論 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 海外農林業事情 プロジェクト研究
専	准教授	横田 茂永 (58) <令和2年4月> 農学博士
		農業経営 情報処理演習 プロジェクト研究
専	講師	瀬戸 隆弘 (37) <令和2年4月> 博士(獣医学)
		家畜生理解剖 圃場実習Ⅰ(畜産) 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 総合実習※ プロジェクト研究
専	講師	吉村 親 (45) <令和2年4月> 修士(教育学)
		農山村園地域公共学 圃場実習Ⅰ(野菜) 圃場実習Ⅱ(野菜) 総合実習※ 農学概論※ プロジェクト研究
実専 (学 科長)	教授	竹内 隆 (63) <令和2年4月> 農学士
		静岡学 野菜栽培 施設園芸 営農と農業関連法※ 県内農林業事情※ プロジェクト研究
実専	准教授	中根 健 (59) <令和2年4月> 農学士
		作物栽培 圃場実習Ⅰ(野菜) 圃場実習Ⅱ(野菜) 企業実習 総合実習※ 県内農林業事情※ プロジェクト研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実専	准教授	中野 敬之 (57) <令和2年4月> 農学士
		茶栽培 圃場実習Ⅰ(茶) 圃場実習Ⅱ(茶) 企業実習 総合実習※ 県内農林業事情※ 農学概論※ プロジェクト研究
実専	准教授	渡邊 貴之 (47) <令和2年4月> 学士(農学)
		家畜育種繁殖 畜産経営演習(大家畜) 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 人工授精論 県外農林業事情 プロジェクト研究
実専	准教授	鵜飼 一博 (50) <令和2年4月> 修士(農学)
		演習林実習Ⅰ 演習林実習Ⅱ 木材生産システム※ プロジェクト研究
実専	講師	五十右 薫 (62) <令和2年4月> 農学士
		圃場実習Ⅰ(花き) 圃場実習Ⅱ(花き) 県外農林業事情 企業実習 総合実習※ 営農と農業関連法※ プロジェクト研究
実専	講師	増田 壽彦 (60) <令和2年4月> 高等学校卒
		圃場実習Ⅰ(野菜) 圃場実習Ⅱ(野菜) 企業実習 総合実習※ 営農と農業関連法※ プロジェクト研究
実専	講師	坂口 良介 (40) <令和2年4月> 学士(農学)
		圃場実習Ⅰ(野菜) 圃場実習Ⅱ(野菜) 企業実習 県外農林業事情 総合実習※ 営農と農業関連法※ GAP演習※ プロジェクト研究
実専	講師	青山 東一 (60) <令和2年4月> 高等学校卒
		畜産経営演習(中小家畜) 企業実習 圃場実習Ⅰ(畜産) 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 総合実習※ プロジェクト研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実専	准教授	中野 敬之 (57) <令和2年4月> 農学士
		茶栽培 圃場実習Ⅰ(茶) 圃場実習Ⅱ(茶) 企業実習 総合実習※ 県内農林業事情※ 農学概論※ プロジェクト研究
実専	准教授	渡邊 貴之 (47) <令和2年4月> 学士(農学)
		家畜育種繁殖 畜産経営演習(大家畜) 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 人工授精論 県外農林業事情 プロジェクト研究
実専	准教授	鵜飼 一博 (50) <令和2年4月> 修士(農学)
		演習林実習Ⅰ 演習林実習Ⅱ 木材生産システム※ プロジェクト研究
実専	講師	五十右 薫 (62) <令和2年4月> 農学士
		圃場実習Ⅰ(花き) 圃場実習Ⅱ(花き) 県外農林業事情 企業実習 総合実習※ 営農と農業関連法※ プロジェクト研究
実専	講師	増田 壽彦 (60) <令和2年4月> 高等学校卒
		圃場実習Ⅰ(野菜) 圃場実習Ⅱ(野菜) 企業実習 総合実習※ 営農と農業関連法※ プロジェクト研究
実専	講師	坂口 良介 (40) <令和2年4月> 学士(農学)
		圃場実習Ⅰ(野菜) 圃場実習Ⅱ(野菜) 企業実習 県外農林業事情 総合実習※ 営農と農業関連法※ GAP演習※ プロジェクト研究
実専	講師	青山 東一 (60) <令和2年4月> 高等学校卒
		畜産経営演習(中小家畜) 企業実習 圃場実習Ⅰ(畜産) 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 総合実習※ プロジェクト研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実専	准教授	中野 敬之 (58) <令和2年4月> 農学士
		茶栽培 圃場実習Ⅰ(茶) 圃場実習Ⅱ(茶) 企業実習 総合実習※ 県内農林業事情※ 農学概論※ プロジェクト研究
実専	准教授	渡邊 貴之 (48) <令和2年4月> 学士(農学)
		家畜育種繁殖 畜産経営演習(大家畜) 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 人工授精論 県外農林業事情 プロジェクト研究
実専	准教授	鵜飼 一博 (51) <令和2年4月> 修士(農学)
		演習林実習Ⅰ 演習林実習Ⅱ 木材生産システム※ プロジェクト研究
実専	講師	五十右 薫 (63) <令和2年4月> 農学士
		圃場実習Ⅰ(花き) 圃場実習Ⅱ(花き) 県外農林業事情 企業実習 総合実習※ 営農と農業関連法※ プロジェクト研究
実専	講師	増田 壽彦 (61) <令和2年4月> 高等学校卒
		圃場実習Ⅰ(野菜) 圃場実習Ⅱ(野菜) 企業実習 総合実習※ 営農と農業関連法※ プロジェクト研究
実専	講師	坂口 良介 (41) <令和2年4月> 学士(農学)
		圃場実習Ⅰ(野菜) 圃場実習Ⅱ(野菜) 企業実習 県外農林業事情 総合実習※ 営農と農業関連法※ GAP演習※ プロジェクト研究
実専	講師	青山 東一 (61) <令和2年4月> 高等学校卒
		畜産経営演習(中小家畜) 企業実習 圃場実習Ⅰ(畜産) 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 総合実習※ プロジェクト研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	講師	星川 健史 (38) ＜令和2年4月＞ 修士(農学)
		木材利用・流通論※ 木材加工演習 県外農林業事情 総合実習※ プロジェクト研究
実専	講師	池ヶ谷 篤 (37) ＜令和2年4月＞ 学士(農学)
		食品加工演習 マーケティング・販売演習※ プロジェクト研究
実(研)	教授	稲葉 善太郎 (61) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		花き栽培 土壌肥料・植物栄養学※ 先端栽培技術※ 海外農林業事情 植物遺伝育種学概論※ 農学概論※ 圃場実習Ⅰ(花き) 圃場実習Ⅱ(花き) 企業実習 県内農林業事情※ プロジェクト研究
実(研)	教授	杉山 泰之 (53) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		果樹栽培 県外農林業事情 GAP演習※ 営農と農業関連法※ 農学概論※ 企業実習 県内農林業事情※ プロジェクト研究
実(研)	教授	片山 信也 (61) ＜令和2年4月＞ 博士(獣医学)
		畜産概論 家畜飼養 飼料総論 畜産環境・堆肥利用論 環境保全型農業論※ 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 県内農林業事情※ プロジェクト研究
実(研)	教授	近藤 晃 (62) ＜令和2年4月＞ 農学修士
		造林学 林業経営 企業実習 森林計画学※ 木材生産システム※ 県内農林業事情※ プロジェクト研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	講師	星川 健史 (38) ＜令和2年4月＞ 修士(農学)
		木材利用・流通論※ 木材加工演習 県外農林業事情 総合実習※ プロジェクト研究
実専	講師	池ヶ谷 篤 (37) ＜令和2年4月＞ 博士(食品栄養科学)
		食品加工演習 マーケティング・販売演習※ プロジェクト研究
実(研)	教授	稲葉 善太郎 (61) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		花き栽培 土壌肥料・植物栄養学※ 先端栽培技術※ 海外農林業事情 植物遺伝育種学概論※ 農学概論※ 圃場実習Ⅰ(花き) 圃場実習Ⅱ(花き) 企業実習 県内農林業事情※ プロジェクト研究
実(研)	教授	杉山 泰之 (53) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		果樹栽培 県外農林業事情 GAP演習※ 営農と農業関連法※ 農学概論※ 企業実習 県内農林業事情※ プロジェクト研究
実(研)	教授	片山 信也 (61) ＜令和2年4月＞ 博士(獣医学)
		畜産概論 家畜飼養 飼料総論 畜産環境・堆肥利用論 環境保全型農業論※ 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 県内農林業事情※ プロジェクト研究
実(研)	教授	近藤 晃 (63) ＜令和2年4月＞ 農学修士
		造林学 林業経営 企業実習 森林計画学※ 木材生産システム※ 県内農林業事情※ プロジェクト研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	講師	星川 健史 (39) ＜令和2年4月＞ 修士(農学)
		木材利用・流通論※ 木材加工演習 県外農林業事情 総合実習※ プロジェクト研究
実専	講師	池ヶ谷 篤 (38) ＜令和2年4月＞ 博士(食品栄養科学)
		食品加工演習 マーケティング・販売演習※ プロジェクト研究
実(研)	教授	稲葉 善太郎 (62) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		花き栽培 土壌肥料・植物栄養学※ 先端栽培技術※ 海外農林業事情 植物遺伝育種学概論※ 農学概論※ 圃場実習Ⅰ(花き) 圃場実習Ⅱ(花き) 企業実習 県内農林業事情※ プロジェクト研究
実(研)	教授	杉山 泰之 (54) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		果樹栽培 県外農林業事情 GAP演習※ 営農と農業関連法※ 農学概論※ 企業実習 県内農林業事情※ プロジェクト研究
実(研)	教授	片山 信也 (62) ＜令和2年4月＞ 博士(獣医学)
		畜産概論 家畜飼養 飼料総論 畜産環境・堆肥利用論 環境保全型農業論※ 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 県内農林業事情※ プロジェクト研究
実(研)	教授	近藤 晃 (64) ＜令和2年4月＞ 農学修士
		造林学 林業経営 企業実習 森林計画学※ 木材生産システム※ 県内農林業事情※ プロジェクト研究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実(研)	講師	山家 一哲 (40) <令和2年4月> 博士(農学)
		圃場実習Ⅰ(果樹) 圃場実習Ⅱ(果樹) 企業実習 県外農林業事情 総合実習※ プロジェクト研究
実み	講師	柴田 昌利 (59) <令和3年4月> 獣医学修士
		圃場実習Ⅱ(中小家畜)
兼任	教授	松尾 和之 (63) <令和2年4月> 博士(農学)
		農林業のための科学 先端栽培技術※ 農学概論※
兼任	教授	佐藤 展之 (63) <令和2年4月> 博士(農学)
		農学概論※
兼任	教授	森口 卓哉 (61) <令和2年4月> 博士(農学)
		流通加工論 植物生理生態学 農と食の健康論※
兼任	教授	外側 正之 (58) <令和2年4月> 博士(農学)
		土壌肥料・植物栄養学※ 農学概論※ 圃場実習Ⅰ(茶) 圃場実習Ⅱ(茶)
兼任	教授	小澤 朗人 (57) <令和2年4月> 博士(農学)
		植物保護 環境保全型農業論※
兼任	教授	杉山 恵太郎 (53) <令和2年4月> 博士(農学)
		農学概論※
兼任	教授	祐森 誠司 (60) <令和2年4月> 農学博士
		農学概論※ 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実(研)	講師	山家 一哲 (40) <令和2年4月> 博士(農学)
		圃場実習Ⅰ(果樹) 圃場実習Ⅱ(果樹) 企業実習 県外農林業事情 総合実習※ プロジェクト研究
実み	講師	柴田 昌利 (59) <令和3年4月> 獣医学修士
		圃場実習Ⅱ(中小家畜)
兼任	教授	松尾 和之 (64) <令和2年4月> 博士(農学)
		農林業のための科学 先端栽培技術※ 農学概論※
兼任	教授	佐藤 展之 (63) <令和2年4月> 博士(農学)
		農学概論※
兼任	教授	森口 卓哉 (61) <令和2年4月> 博士(農学)
		流通加工論 植物生理生態学 農と食の健康論※
兼任	教授	外側 正之 (58) <令和2年4月> 博士(農学)
		土壌肥料・植物栄養学※ 農学概論※ 圃場実習Ⅰ(茶) 圃場実習Ⅱ(茶)
兼任	教授	小澤 朗人 (57) <令和2年4月> 博士(農学)
		植物保護 環境保全型農業論※
兼任	教授	杉山 恵太郎 (53) <令和2年4月> 博士(農学)
		農学概論※
兼任	教授	祐森 誠司 (60) <令和2年4月> 農学博士
		農学概論※ 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実(研)	講師	山家 一哲 (41) <令和2年4月> 博士(農学)
		圃場実習Ⅰ(果樹) 圃場実習Ⅱ(果樹) 企業実習 県外農林業事情 総合実習※ プロジェクト研究
実み	講師	柴田 昌利 (60) <令和3年4月> 獣医学修士
		圃場実習Ⅱ(中小家畜)
兼任	教授	松尾 和之 (65) <令和2年4月> 博士(農学)
		農林業のための科学 先端栽培技術※ 農学概論※
兼任	教授	佐藤 展之 (64) <令和2年4月> 博士(農学)
		農学概論※
兼任	教授	森口 卓哉 (62) <令和2年4月> 博士(農学)
		流通加工論 植物生理生態学 農と食の健康論※
兼任	教授	外側 正之 (59) <令和2年4月> 博士(農学)
		土壌肥料・植物栄養学※ 農学概論※ 圃場実習Ⅰ(茶) 圃場実習Ⅱ(茶)
兼任	教授	小澤 朗人 (58) <令和2年4月> 博士(農学)
		植物保護 環境保全型農業論※
兼任	教授	杉山 恵太郎 (54) <令和2年4月> 博士(農学)
		農学概論※
兼任	教授	祐森 誠司 (61) <令和2年4月> 農学博士
		農学概論※ 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	池田 潔彦 (61) ＜令和3年4月＞ 博士(農学)
		木材利用・流通論※ 木材生産システム※
兼任	教授	逢坂 興宏 (58) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		森林土木論(治山・林道) 森林計画学※ 農学概論※
兼任	教授	天野 哲郎 (66) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		農林業政策 営農と農業関連法
兼任	教授	菊池 宏之 (61) ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		アグリフードシステム論 営農と農業関連法※
兼任	教授	柯(栗田) 麗華 (54) ＜令和3年4月＞ 博士(経営学)
		マーケティング・販売演習※
兼任	教授	前田 節子 (62) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		食品加工演習 マーケティング・販売演習※ 営農と農業関連法※
兼任	准教授	大塚 誠 (55) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		家畜衛生学 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜)
兼任	准教授	平岡 裕一郎 (43) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		森林生態学 樹木・組織学 森林計画学※ 農学概論※
兼任	准教授	中山 正典 (62) ＜令和2年4月＞ 博士(地域社会システム)
		農林業史

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	池田 潔彦 (61) ＜令和3年4月＞ 博士(農学)
		木材利用・流通論※ 木材生産システム※
兼任	教授	逢坂 興宏 (58) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		森林土木論(治山・林道) 森林計画学※ 農学概論※
兼任	教授	天野 哲郎 (66) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		農林業政策 営農と農業関連法
兼任	教授	菊池 宏之 (62) ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		アグリフードシステム論 営農と農業関連法※
兼任	教授	柯(栗田) 麗華 (54) ＜令和3年4月＞ 博士(経営学)
		マーケティング・販売演習※
兼任	教授	前田 節子 (62) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		食品加工演習 マーケティング・販売演習※ 営農と農業関連法※
兼任	准教授	大塚 誠 (55) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		家畜衛生学 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜)
兼任	准教授	平岡 裕一郎 (43) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		森林生態学 樹木・組織学 森林計画学※ 農学概論※
兼任	准教授	中山 正典 (62) ＜令和2年4月＞ 博士(地域社会システム)
		農林業史

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	池田 潔彦 (62) ＜令和3年4月＞ 博士(農学)
		木材利用・流通論※ 木材生産システム※
兼任	教授	逢坂 興宏 (59) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		森林土木論(治山・林道) 森林計画学※ 農学概論※
兼任	教授	天野 哲郎 (67) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		農林業政策 営農と農業関連法
兼任	教授	菊池 宏之 (63) ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		アグリフードシステム論 営農と農業関連法※
兼任	教授	柯(栗田) 麗華 (55) ＜令和3年4月＞ 博士(経営学)
		マーケティング・販売演習※
兼任	教授	前田 節子 (63) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		食品加工演習 マーケティング・販売演習※ 営農と農業関連法※
兼任	准教授	大塚 誠 (56) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		家畜衛生学 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜)
兼任	准教授	平岡 裕一郎 (44) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		森林生態学 樹木・組織学 森林計画学※ 農学概論※
兼任	准教授	中山 正典 (63) ＜令和2年4月＞ 博士(地域社会システム)
		農林業史

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	丹羽 康夫 (56) ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		分子生物学 農学概論※
兼任	准教授	内藤 博敬 (52) ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		食品科学 農と食の健康論※
兼任	講師	長藤 亮彦 (58) ＜令和3年4月＞ 農学士
		大型機械実習
兼任	講師	太田 智 (41) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		圃場実習Ⅰ(果樹) 圃場実習Ⅱ(果樹) 総合実習※ 植物遺伝育種学概論※
兼任	講師	大石 竜 (36) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		圃場実習Ⅰ(野菜) 圃場実習Ⅱ(野菜) 総合実習※
兼任	講師	貞弘 恵 (40) ＜令和2年4月＞ 学士(獣医学)
		圃場実習Ⅰ(畜産) 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 総合実習※ GAP演習※
兼任	助教	相蘇(真田)春菜 (30) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		演習林実習Ⅰ 演習林実習Ⅱ 総合実習※
兼任	講師	齋藤 美英 (59) ＜令和3年4月＞ 獣医学修士
		圃場実習Ⅱ(大家畜)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	丹羽 康夫 (56) ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		分子生物学 農学概論※
兼任	准教授	内藤 博敬 (52) ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		食品科学 農と食の健康論※
兼任	講師	長藤 亮彦 (58) ＜令和3年4月＞ 農学士
		大型機械実習
兼任	講師	太田 智 (41) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		圃場実習Ⅰ(果樹) 圃場実習Ⅱ(果樹) 総合実習※ 植物遺伝育種学概論※
兼任	講師	大石 竜 (36) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		圃場実習Ⅰ(野菜) 圃場実習Ⅱ(野菜) 総合実習※
兼任	講師	貞弘 恵 (40) ＜令和2年4月＞ 学士(獣医学)
		圃場実習Ⅰ(畜産) 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 総合実習※ GAP演習※
兼任	助教	相蘇(真田)春菜 (31) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		演習林実習Ⅰ 演習林実習Ⅱ 総合実習※
兼任	講師	齋藤 美英 (59) ＜令和3年4月＞ 獣医学修士
		圃場実習Ⅱ(大家畜)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	丹羽 康夫 (57) ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		分子生物学 農学概論※
兼任	准教授	内藤 博敬 (53) ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		食品科学 農と食の健康論※
兼任	講師	長藤 亮彦 (59) ＜令和3年4月＞ 農学士
		大型機械実習
兼任	講師	太田 智 (42) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		圃場実習Ⅰ(果樹) 圃場実習Ⅱ(果樹) 総合実習※ 植物遺伝育種学概論※
兼任	講師	大石 竜 (37) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		圃場実習Ⅰ(野菜) 圃場実習Ⅱ(野菜) 総合実習※
兼任	講師	貞弘 恵 (41) ＜令和2年4月＞ 学士(獣医学)
		圃場実習Ⅰ(畜産) 圃場実習Ⅱ(大家畜) 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 総合実習※ GAP演習※
兼任	助教	相蘇(真田)春菜 (32) ＜令和2年4月＞ 博士(農学)
		演習林実習Ⅰ 演習林実習Ⅱ 総合実習※
兼任	講師	永田 浩章 (60) ＜令和3年4月＞ 獣医学修士
		圃場実習Ⅱ(大家畜)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	鈴木 健司 (53) <令和2年4月> 修士(体育学)
		保健体育
兼任	講師	石垣(一杉) 美佳 (52) <令和2年4月> 学士(法学)
		簿記基礎 簿記応用
兼任	講師	高瀬 奈美 (43) <令和2年4月> Master of Arts (TESOL)
		英語基礎 英語応用
兼任	講師	飯野 勝己 (56) <令和2年7月> 博士(文学)
		コミュニケーション論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	鈴木 健司 (53) <令和2年4月> 修士(体育学)
		保健体育
兼任	講師	石垣(一杉) 美佳 (52) <令和2年4月> 修士(経済学)
		簿記基礎 簿記応用
兼任	講師	上田 雅美 (32) <令和2年4月> 修士(英語教授法)
		英語基礎 英語応用
兼任	講師	飯野 勝己 (56) <令和2年7月> 博士(文学)
		コミュニケーション論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	鈴木 健司 (54) <令和2年4月> 修士(体育学)
		保健体育
兼任	講師	石垣(一杉) 美佳 (53) <令和2年4月> 修士(経済学)
		簿記基礎 簿記応用
兼任	講師	上田 雅美 (33) <令和2年4月> 修士(英語教授法)
		英語基礎 英語応用
兼任	講師	飯野 勝己 (57) <令和2年7月> 博士(文学)
		コミュニケーション論

- (注)
- 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 - 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
 - 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

・兼任講師（高瀬奈美）の就任辞退により、兼任講師（上田雅美）に変更。

【令和3年度】

・兼任講師（斉藤美英）の就任辞退により兼任講師（永田浩章）に変更

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要な研究業績を有する実務家教員数
16	6	7	4
名	名	名	名

(注) ・ 専門職大学設置基準、専門職短期大学設置基準により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【専門職大学等】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
6	5	10	0	21	0	6	5	10	0	21	0
(6)	(5)	(9)	(0)	(20)	(0)						
専任教員数(専)			専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	/	専任教員数(専)			専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	/
4			12	5		4			12	5	
(4)			(11)	(5)		[0]			[0]	[0]	
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
6	5	10	0	21	0	6	5	10	0	21	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
専任教員数(専)			専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	/	専任教員数(専)			専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	/
4			12	5		4			12	5	
[0]			[0]	[0]		[0]			[0]	[0]	

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
 ・ 「実専」は実務家教員、「実(研)」は研究能力を併せ有する実務家教員を計上してください。
 なお、みなし専任教員(実み)がいる場合は、必要に応じて各項目の教員数に計上してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	1	1
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{21}{21} = 100\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{1}{21} = 4.76\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \#DIV/0!\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	就任・退任・日本の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	就任・退任・日本の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{21} = 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	: 0 科目	必修	: 0 科目	必修	: 0 科目
		選択	: 0 科目	選択	: 0 科目	選択	: 0 科目
		自由	: 0 科目	自由	: 0 科目	自由	: 0 科目
		計	: 0 科目	計	: 0 科目	計	: 0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">該当なし</div>

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
<p>認 可 時</p> <p>(令和元年)</p>	<p>カリキュラム・ポリシーにおいて、授業の方法や評価の方法が追記されたが、例えば、講義と演習、実習等を組み合わせて行う場合の評価など、授業の方法に応じた評価の方法についても検討し、記載することが望ましい。(助言事項)</p>	<p>改善意見</p> <p>「授業別ルーブリック」を用いることを明記した「成績評価ガイドライン」を作成し、各授業科目に合わせて評価方法や評価比率を決め、ルーブリックを作成し、成績評価を行うこととした。 【参考資料1】(2)</p>	<p>履行済</p>
<p>認 可 時</p> <p>(令和元年)</p>	<p>選択科目について、コースごとの必修科目が整理されたが、多くの科目が選択必修科目に設定され、学生の科目の選択の余地が実質的にほとんど無くなっていることから、学生が主体的に履修科目を選択できるように改めること、例えば、本学は複数のコースを設定しており、横断的・複合的にさまざまな科目を履修できるように改善したり、自由科目の履修についての適切な指導などを通じて、学生の多様な学びを確保するよう努めること。また、その考えについては、カリキュラム・ポリシーにおいて明示し、学生に対し明らかにすること。</p>	<p>遵守事項</p> <p>「植物遺伝育種学概論」を林業コース必修から選択必修に変更、また、「作物栽培」を林業コース選択必修に加えることで、横断的・複合的にさまざまな科目を履修できるように改善をおこなった。また、自由科目については、授業のねらいなどを入学ガイダンス等で説明することで学生に受講を促し、学生が多様な学びを確保できるように努めるなど、学生が主体的に履修科目を選択できるように改めた。また、以上について、カリキュラム・ポリシーに明示した。 【参考資料2, 3】(2)</p>	<p>履行済</p>
<p>認 可 時</p>			

設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の中心として広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究するという大学の目的、さらに専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を育成するという専門職短期大学の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。

(令和元年)

遵守事項

設置計画に基づき、開学初年度に必要な授業科目は全て配置した。

専任教員について、設置計画に基づき、開学初年度に必要な就任予定者は全員就任した。

施設整備について、各校舎の整備は、令和3年度までに段階的に実施するものとしており、A棟については開学までに必要な改修工事を令和元年度中に完了させ、教員及び入学者の受け入れ態勢を整えた。

学生確保について、設置認可日まで学生募集活動ができなかったことなどにより、入学者数が定員を下回った。

管理運営について、設置認可後の県議会において、管理運営に係る条例を制定した。また、開学までに必要な諸規程について、前年度に設けた開学準備委員会において各種規程を制定した。開学後直ちに、第1回評議会、第1回教授会を開催。各種委員会は、4月2日から6日にかけて第1回目を開催した。

FD活動として、開学前の12月に、専任教員予定者を集めて研修会を開催した。4月2日に全専任教員の研修会を開催し、学長による大学の理念・目的や教育目標等について訓示を行った。3日の教員向けガイダンスでは、学務システム等の利用のための講習会を実施した。(2)

教員組織について、設置計画に基づき、開学2年目に必要な専任教員(就任予定者)は全員就任した。教授会はすべての専任教員で構成し、毎月1回を原則として、令和2年度は計10回開催した。

施設整備について、令和3年2月にA棟のエレベータ設置工事が完成した。また、3月にはC棟(新校舎)が完成し、設置基準上必要な校舎面積を確保した。

新型コロナウイルスへの対応としては、大学として機動的に対応するため、評議会の下に新型コロナウイルス感染症対策委員会を設置し、感染防止対策や学事日程の変更等について協議することとした。令和2年度は、委員会を9回開催し、緊急事態宣言を踏まえた臨時休校の決定や遠隔授業の実施、通常授業の開始、感染予防対策等について検討し、対応に当たった。

1年次に学生の学びをサポートするために実施する新生セミナー(週1回程度、通年25コマ開催)において、本学の教育内容や科目の履修、学生生活、キャリア支援等について指導・サポートするとともに、担任による個別面談を通じて、学生のコース・実習専攻の選択を支援するなど、学生の多様な学びを確保するよう努めた。

FD・SD委員会において、教員の講義や実習スキルを向上させるため、前期と後期に学生への授業評価アンケートを実施した。前期の評価結果を共有したことで教員に改善を促し、後期の高評価に繋がった。また、11月から2月に、教員相互の授業参観を実施し、各教員は最低1回の参加を義務づけ、自身の講義の改善に役立った点について報告書の提出を求めた。(3)

履行済

1年次後半には職業専門科目において栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて科目を履修することとなるため、履修科目の選択に関する附帯事項の趣旨を踏まえ、実際に学生がコース選択をする際には、分かりやすい説明を実施するなど学生をしっかりとサポートし、多様な学びを確保するよう努める。

A棟については、令和2年から3年度にかけて、エレベータの設置工事やC棟への図書館等の機能移転等に対応した改修工事を行う。C棟及び外構については、開学後も工事を継続し、令和2年度末の完成を予定している。

学生確保については、早期に高校訪問を実施し、入試制度の概要を周知するなど、積極的な学生募集活動を行う。また、オープンキャンパスについては、新型コロナウイルスの影響により、早期の開催が困難であるが、個別の学校見学を随時受け入れるなど、方法を工夫しながら学生や保護者に向けたPR活動を実施していく。

教育活動の水準を一層向上させるため、今後のFD活動として、教員相互の授業参観及び教授技術向上のための意見交換会の実施を計画している。(2)

新型コロナウイルスへの対応としては、引き続き、学生の学修機会の確保と感染予防対策の徹底の両立に取り組んでいくこととする。FD活動としても、遠隔授業が必要な事態も想定し、教務委員会(遠隔授業検討チーム)を中心に様々な工夫や見直しを行い、経験を積んでいくこととする。

本学の研究・教育活動を公表・広報するため、年間の活動の記録・広報をねらいとする年次報告と、本学の研究成果の公表をねらいとする紀要を合わせた「紀要・年報」を作成するため、令和3年度、紀要・年報編集委員会を立ち上げた。第1部「研究・教育活動の成果」、第2部「研究・教育活動記録」、第3部「大学の年間活動状況」の3部構成とし、6月の発行に向けて作業を進める。

現在、自己点検評価委員会において開学初年度の自己点検評価を行っている。取りまとめた結果は速やかに公表する予定である。今後も、公立大学として社会に

				<p>対する説明責任を果たし、今後も透明性の高い運営や恒常的な改善に努め、県民に開かれた大学づくりを推進していく。</p> <p>完成年度を迎えたが、付された意見の趣旨に沿って、専門職短期大学の目的に照らし、今後も自己点検等を通じて、改善の取り組みを継続していく。(3)</p>
--	--	--	--	---

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<生産科学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 学則の変更</p> <p>② 学事日程及び授業計画(シラバス)の変更</p>	<p>① 「静岡県立農林環境専門職大学等の設置、管理及び授業料等に関する条例（令和元年静岡県条例第12号）」の制定に伴い、学則について、用語を条例に揃える等、必要な修正を行い、4月1日付けで、届出を行った。</p> <p>(変更内容) (1) 職員組織の修正 (2) 用語、記述の修正 (3) 別表の修正 【参考資料4】</p> <p>② 令和2年度について、コロナ感染症に係る臨時休業（令和2年4月10日～5月6日）に対応するため、学事日程及び授業計画（シラバス）を変更した。</p> <p>(変更内容) (1) 前期試験日程の変更 (2) 講義回数を15回から13回に変更するとともに、課題やレポート等、その補完方法をシラバスに追記 (3) 講義科目について、対面授業に代わり、双方向またはオンデマンド方式による遠隔授業を実施（5月中）。実習科目については夏季休業中に補講を実施予定。</p> <p>上記の変更にあたっては、教育の質を落とさず、学習効果が得られるよう、学生にも学内ネットワークを通じて、連絡・説明を行っている。</p> <p>令和3年度は当初計画どおり実施した。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>報告年度（令和2年度）</p> <p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FD・SD委員会を設置 【参考資料5】 <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月3日に第1回委員会を開催（委員8人出席）。今後、必要に応じて随時、開催。 <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容・方法の改善を図るための組織的な研修及び研究活動の実施 ・ 教職員に求められるコミュニケーション能力、戦略的な企画やマネジメント能力に加え、大学運営に関する基礎的な知識、大学の諸活動に関するデータの収集・分析などの専門的な知識やスキル向上のための研修の実施 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学の理念・目的や教育について理解を深めるための全体研修会 ・ 教員相互の授業参観 ・ 学生による授業評価やアンケートの実施 ・ 授業改善研究会 ・ 学務・教務に関する事項やネットワーク等の利用のためのガイダンス 等 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体研修会は、学長による大学の理念・目的や教育目標等について訓示 ・ 授業参観は、期間を定めた上で、教員相互の講義の参観ができるようにするとともに、大学での講義の経験の無い教員を対象に、大学での講義経験が豊富な教員の授業参観を行った後で意見交換を行う研究会を複数回実施 ・ 授業改善研究会は、FD・SD委員会で定めたテーマに関する講師を外部から招き、講習形式で実施 ・ ガイダンスは、事務局からの説明とあわせて、学務システム等の利用のための講習会を実施 <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 全体研修会 [令和元年12月13、14日]（専任教員予定者20人参加） ② 全体研修会 [令和2年4月2日]（専任教員20人参加） ③ ガイダンス [令和2年4月3日]（専任教員20人が参加） ④ 授業参観 [6～7月頃の実施を予定] ⑤ 授業改善研究会 [8月頃の開催を予定]
--

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・未開催のため該当なし。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・学生による授業評価やアンケートは、学生ポータルを利用して実施（実施時期については検討中）

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・公開方法については今後検討

報告年度（令和3年度）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・FD・SD委員会を設置 【参考資料5】

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

【令和2年度】

第1回 令和2年4月3日（教員5人中5人参加）

第2回 令和2年6月22日（教員5人中4人参加）

第3回 令和2年7月9日（教員5人中5人参加）

第4回 令和2年8月24日（教員5人中5人参加）

第5回 令和2年10月28日（教員5人中5人参加）

第6回 令和3年2月18日（教員5人中5人参加）

【令和3年度】

第1回 令和3年4月28日（教員4人中4人参加）

c 委員会の審議事項等

- ・授業内容・方法の改善を図るための組織的な研修及び研究活動の実施について
- ・学生授業評価アンケートの実施及び評価結果の分析について
- ・教員相互の授業参観の実施について
- ・ルーブリック評価の実施について
- ・優秀教員表彰の実施について

② 実施状況

a 実施内容

- ・大学の理念・目的や教育について理解を深めるための全体研修
- ・教員相互の授業参観
- ・学生による科目毎の授業評価
- ・教育に関する満足度などを調査するための学生アンケート
- ・授業改善研究会

b 実施方法

- ・全体研修会は、学長による大学の理念・目的や教育目標等について訓示
- ・授業参観は、期間を定めた上で教員が相互に授業を参観し、レポートを提出
- ・毎学期末に、学内ポータルを利用して、履修学生を対象に授業評価に関するアンケートを実施
- ・年度末に、学内ポータルを利用して、全学生を対象に教育研究や学生生活、キャンパス環境等に関するアンケートを実施
- ・授業改善研究会は、FD・SD委員会で定めたテーマに関する講師を外部から招き、講習形式で実施

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・大学の理念・目的や教育について理解を深めるための全体研修会[令和3年4月2日]
（専任教員20人、欠席1人）
- ・教員相互の授業参観（11～1月 全教員が最低1回実施）
- ・学生による科目毎の授業評価（春期、夏期、秋期、冬期の4回開催）
- ・教育に関する満足度などを調査するための学生アンケート（令和3年3月）
- ・授業改善研究会[令和2年9月24日]（専任教員20人、欠席1人）
テーマ：ルーブリック評価と活用の意義（講師：関西大学 特別任命助教 多田 泰紘）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・授業改善研究会での議論を踏まえ、実習科目を中心にルーブリック評価の導入に向けた検討を開始
- ・授業評価結果等の意見を踏まえ、わかりやすい遠隔授業を実施するための「遠隔授業マニュアル」を策定した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・各期の終了時に、開講した科目毎に、学内ポータルを利用して、履修学生を対象に授業評価に関するアンケートを実施
- ・年度末に、学内ポータルを利用して、全学生を対象に教育研究や学生生活、キャンパス環境等に関するアンケートを実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・授業評価アンケート結果については、全教員に対し、教授会において公表
- ・学生に対する公開については実施していない

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

報告年度（令和2年度）

① 体制

a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）

- ・令和2年4月1日に教育課程連携協議会を設置

[委員の変更の状況 認可時]

構成員区分	氏名	年齢	現所属及び役職名	変更の理由
職業	齊藤 恭市	63	静岡県農業経営士協会 会長	改選のため
職業	戸塚 央男	58	静岡県農業協同組合中央会 農政営農部長	退職のため
地域	鈴木 一洋	50	磐田市 農林水産課長	人事異動のため
その他	竹川 暢昭	60	静岡県農業高等学校校長会 会長	退職のため

[委員の変更の状況 令和2年度]

構成員区分	氏名	年齢	現所属及び役職名
職業	浅野 精一	57	静岡県農業経営士協会 副会長
職業	杉山 和陽	58	静岡県農業協同組合中央会 担い手支援部長
地域	川島 光弘	50	磐田市 農林水産課長
臨地	佐野 敦子	54	静岡県農業法人協会会長
その他	松下 勝也	57	静岡県農業高等学校校長会 会長

- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
 - ・年2回（7月、2月）開催予定。
 - ・令和元年度については未開催のため該当なし。
- c 委員会の審議事項等
 - 未開催のため該当なし。
- d その他
 - 未開催のため該当なし。

② 審議状況

- a 審議した内容
- b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況
 - 未開催のため該当なし。開催後、見直しに向けた検討を実施。
- c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況
 - 未開催のため該当なし。

報告年度（令和3年度）

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
 - ・令和2年4月1日に教育課程連携協議会を設置
 - ・令和3年度は委員の変更予定なし
- b 委員会の開催状況
 - ・第1回：令和2年9月1日
 - ※令和3年度については9月と2月の2回、対面により実施予定
- c 委員会の審議事項等
 - ・教育課程及び教育内容について
- d その他
 - ・特になし

② 審議状況

- a 審議した内容
 - ・ディプロマポリシー及びアドミッションポリシーを踏まえ、本学のカリキュラムについて審議
- b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況
 - ・特になし
- c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況
 - ・特になし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

報告年度（令和2年度）

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
 - ・今後、運営の実績については、自己点検評価委員会が自己点検評価を行った上で報告書を作成し、評議会に提出するとともに、広く公表する。
- ② 自己点検・評価報告書
 - a 公表（予定）時期
 - ・令和3年6月末 公表

- b 公表方法
 - ・大学ホームページ上に公開予定（令和3年6月末を予定）

- ③ 認証評価を受ける計画
 - ・認証評価機関と認証評価時期については検討中であり、具体的な計画は未定。

報告年度（令和3年度）

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
 - ・令和2年4月1日に自己点検評価委員会を設置し、令和2年度は計5回の委員会を開催した。
 - ・開学初年度であることから、認証評価制度の確認、機関別認証評価機関の選定、自己点検評価報告書の様式の策定等について、議論した。
 - ・また、第3回においては、外部講師を招いて、認証評価制度と自己点検評価についての勉強会を開催した。
 - ・大学を立ち上げ、基本組織を整え、必要な施設整備を行い、教育課程1年次を経過した。
 - ・自己点検評価報告書を取りまとめているところだが、設置の趣旨・目的に沿った運営ができていると評価することができる。
 - ・今後、結果を公表することにより公立大学として社会に対する説明責任を果たし、透明性の高い運営や恒常的な改善に努め、県民に開かれた大学づくりを推進していく方針である。

- ② 自己点検・評価報告書

- a 公表（予定）時期
 - ・令和3年7月 公表予定
- b 公表方法
 - ・大学ホームページ上に公開予定（令和3年7月を予定）

- ③ 認証評価を受ける計画
 - ・機関別認証評価における評価機関の選定、分野別認証評価の受審方法等について協議してきたが、現時点で決定していない。引き続き、検討することとなっている。

- (注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
 また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
 なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

- a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合 》

- b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]
- c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合 》

- d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

【設置計画履行状況報告書・補足説明資料(専門職大学等)】

(共通留意事項)

- 「認可(設置)時の計画」には認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した計画を記入ください。
- 認可申請書に記載がなければ「記載なし」と記入ください。
- 「履行状況」には報告時点で取り組んでいる事項(準備状況含む)を記入ください。
その際、「認可(設置)時の計画」から変更している場合は、変更した理由を具体的に記入ください。

① 入学者選抜

認可(設置)時の計画	履行状況
<p>・ 多様性に配慮した選抜の実施の有無、実施方法(定員枠、入試科目)</p> <p>①推薦型選抜 ア 指定校推薦 現役生を対象とし、本学指定の基準の学業成績を前提として、人物的にも優秀で、県内11校の農林業関係高校の高等学校長が推薦する者について調査書と面接により選考する。高校には、本学のアドミッション・ポリシーを明示し、これに合致した意欲ある学生の推薦を依頼する。募集人員25名。 イ 公募推薦 現役生を対象とし、本学指定の基準の学業成績を前提として、人物的にも優秀で、出身学校長が推薦する者について、調査書と小論文、面接の結果を総合的に考慮して、農林業に従事する強い意欲のある学生を選考する。募集人員55名。 ②私費外国人留学生選抜 基本的に日本語のできる外国人を想定することとし、「日本語能力試験でN2以上の成績を修めたもの、若しくは相当と認められる日本語能力を有するものを対象として実施する。出願書類審査、小論文、面接を組み合わせで行う。募集人員は若干名とし、推薦型選抜の募集人員に含む。</p> <p>・ 社会人選抜の実施の有無、実施方法(定員枠、入試科目) 23歳以上、かつ、勤務経験3年以上のものを対象として実施する。出願書類審査、小論文、面接を組み合わせで行う。募集人員は若干名とし、推薦型選抜の募集人員に含む。</p>	<p>①推薦型選抜 ア 指定校推薦 受験者19名。合格者19名。(2) 受験者21名。合格者21名。(3) イ 公募推薦 受験者39名。合格者39名。(2) 受験者55名。合格者53名。(3)</p> <p>②私費外国人留学生選抜 志願者なし(2) 受験者2名。合格者1名。(国籍:ベトナム)(3)</p> <p>・ 社会人選抜 志願者なし。(2) 受験者2名。合格者1名(3)</p>

② 臨地実務実習

認可(設置)時の計画	履行状況
<p>・ 実習先の確保の状況 法人化もしくは10年以上継続している69経営体を確保。</p> <p>・ 実習水準の確保の方策 実習先には1~4人の少人数の学生を配置する。また、実習前・実習中・実習後には、担当教員が臨地実務実習先のを訪問し、綿密な連携を実施。</p> <p>・ 実習先との連携体制 実習前には学生・担当教員・実習先とで実習計画を確認するとともに、実習中は担当教員が定期的に訪問し、実施状況を確認する。また、実施後は担当教員と実習先とが問題点や課題点を共有するための体制を構築する。</p> <p>・ 連携実務演習等 臨地実務実習に係る科目が10単位であるため、連携実務演習等の開設はしていない。</p>	<p>・ 実習先の確保の状況 実習先の確保状況に変更なし。(2) 新たに12経営体を追加し、81経営体を確保。(3)</p> <p>・ 実習水準の確保の方策 未実施。実施後に検証を行う。(2) 未実施。実施にあたっては、実習先には1~4人の少人数の学生を配置する。また、実習前・実習中・実習後には、担当教員が臨地実務実習先のを訪問し、綿密な連携を実施する予定。 また、「臨地実務実習要綱」を策定し、実習の目標や評価内容について共有するとともに、実習先が実習後に提出する「企業実習評価表」を定め、評価基準を明らかにした。(3)</p> <p>・ 実習先との連携体制 未実施。実施後に検証を行う。(2) 未実施。実施後に検証を行う。(3)</p> <p>・ 連携実務演習等 臨地実務実習に係る科目が20単位であるため、連携実務演習等の開設はしていない。</p>

③ その他

認可(設置)時の計画	履行状況
<p>・ 同時に授業を行う学生数が40人を超える場合に講じる措置</p> <p>・ 入学前の実務経験を単位に換算した場合、その実施状況 (換算の対象とした実務経験の内容と、換算した単位数、適切な換算が行われていることを説明すること。また換算の根拠となる規定等も添付すること)</p>	<p>「静岡学」(大学と合同で実施)について、本県ゆかりのトップランナーによる講話の聴講や、多様な意見に触れることを目的に行う発表は全員で行うが、講話後に行うグループワークは少人数で行うなど、十分な教育水準が担保されるよう配慮して実施する。</p> <p>・ 該当なし</p>